

福島県産木材

No. 601

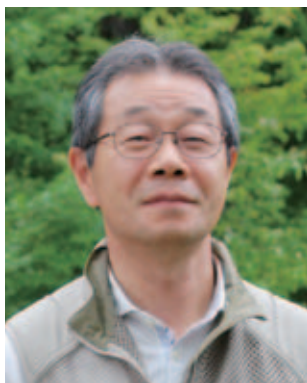
題字 福島県知事 佐藤 雄平



9

2014

かんしゅう■福島県農林水産部
表紙の写真■新築中



フォレストパークの取り組み

公益財団法人ふくしまフォレスト・エコ・ライフ財団
理事長 飯 東 昭 三

平成二三年、フォレストパークあだたらは、正に「沈黙の春」ならぬ「沈黙の夏」を経験することになりました。「沈黙の春」は、残留農薬による環境汚染を警鐘する本でしたが、「沈黙の夏」は、原発事故で発生した放射性物質による環境汚染の結果生じた状況です。

フォレストパークあだたらは、全国規模を誇るオートキャンプ場を有する森林公園です。毎年、子供連れの家族を含む多くの利用者で賑わっていた夏、この年は、放射能汚染による風評被害から利用者が極端に少なく子供達の声がしない寂しい、そして異様な夏を過ごすことになりました。

夏休み前から、このような状況は予想されたので、フォレストパークあだたら及び福島県の復興のために何をなすべきか、何ができるのかを議論・検討をしました。森林環境や温泉を活用して、今まで経験したことのないストレスを抱えた県民の皆さんには、ゆつくりとリフレッシュする場の提供を、県外の利用者には福島県の現状や食の安全・安心対策、元気に生活している県民を見ていただき、福島県の「今」を理解していただく活動に取り組みことになりました。その後、県内外に避難している方々の絆を深める活動にも取り組むことになりました。

その年の九月から思い切った割引制度を創設し、多くの方が利用しやすい環境作りとともに、オートバイライダーや若者グループ等新しい利用者の確保や桜の植樹事業など復興支援のイベントの開催にも取り組んでいます。

その結果、オートキャンプ場では、平成二三年度が前年比四〇割台にまで激減した利用が平成二五年度には八〇割台にまで戻ってきています。

しかしながら、主に県内外の小・中学校の野外活動等に利用されていた森林学習区域の利用は、依然として回復傾向が見られない状況にあります。

今後は、県による除染工事が今年度中に終了することから、新しい活動プログラムや空間線量も含めた情報提供により、教育旅行や全国規模のイベントなど多くの学校や新たな利用者層を開拓して利用促進に努めるとともに、交流人口の確保など福島県の復興に繋がる活動に引き続き職員一同、精一杯取り組んでまいりますので、よろしくお願いいたします。

《も く じ》

とびら	森と生きる……………	7
フォレストパークの取り組み	普及指導員通信……………	8
公益財団法人ふくしまフォレスト・エコ・ライフ財団	林災防だより……………	9
理事長 飯東 昭三……………	森連だより……………	10
農林水産大臣による	山地防災ヘルパー講習会……………	11
「ふくしま森林再生事業」の現地視察……………	木材市況・ふくしま東西南北……………	12
第40回福島県緑の少年団大会……………	はなしのひろば……………	13
林業研究センターだより……………		
		5～6

農林水産大臣による 「ふくしま森林再生事業」の現地視察

福島県森林整備課

平成二六年六月二十八日（土）、林

芳正農林水産大臣が来県され、県北農林事務所が二本松市渋川地内の県行造林で実施中のふくしま森林再生事業の現地視察が行われました。

ふくしま森林再生事業は、震災後、森林整備が停滞している森林について、市町村や県等の公的主体が森林整備と放射性物質対策を一体的に実施し、森林の持つ多面的機能を維持しながら放射性物質の影響の低減、拡散防止を図ることを目的に実施するもので、平成二五年度から県が取り組んでおります。

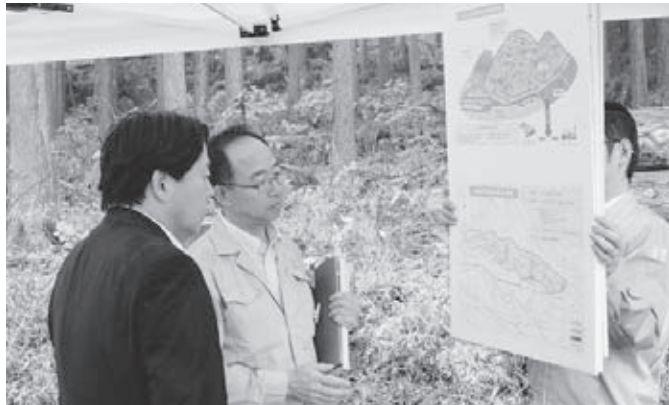
当区域の概要は、面積二四・八四㍉で内訳は、四五年生のアカマツ林が二二・四五㍉、十七年生・四五年生のスギ林が二・三九㍉というアカマツ林主体の森林です。事業内容としては全域を利用間伐あるいは保育間伐を行い、一、六五〇㍉の作業道を入れながら、間伐材の搬出利用を行っています。

また、放射性物質対策としては、枝葉の集積や丸太柵工を実施してい

ます。

当日は、関係者やマスコミが待つ中、雨とともに到着した大臣は、早速、桃井森林整備課長から事業の概要や進捗等について説明を受けた後、高性能林業機械（プロセッサ等）による枝払い、玉切り等の作業を視察されました。

その後は森林整備を行った林内で



事業概要・進捗状況の聞き取り



高性能林業機械による作業の視察

計測したデータにより、間伐後の放射線量が減少していることを確認しました。さらに作業道の設置状況及び高性能林業機械による出材の視察後、県内の原木シイタケ生産の現状や風評被害について、林業振興課渡部主幹から説明を受けました。説明を受けた後、炭火で焼いた県内産の原木シイタケを試食しました。

ふくしま森林再生事業の概要や、県内のシイタケ生産状況等、現場の状況の視察により、福島県の森林整備の現状について理解を深めていただきました。



原木シイタケの試食



空間放射線量の確認

第40回 福島県緑の少年団大会 ～福島県緑の少年団未来の森づくり大会～

（公社）福島県森林・林業・緑化協会 緑化推進局 緑化推進課／海岸林再生室



記念撮影

平成二六年七月二十九日（火）、相馬市民会館において、「第四〇回福島県緑の少年団大会」を福島県緑の少年団育成協議会、（公社）福島県森林・林業・緑化協会の主催、福島県、福島県教育委員会、関東森林管理局、相馬市、南相馬市の後援により開催しました。

現在、県内には一一〇団、五、一五五名の緑の少年団が結成されており、県内各地において、学習活動・地域の皆さんと一緒に活動する奉仕活動・レクリエーション活動などを積極的に取り組んでいます。緑の少年団大会は、県内の緑の少年団が一堂に会し、自然の中での学習などを通じてお互いに交流を深め、緑を愛する豊かな人間性を持つ、健康で明るい社会人になって欲しいという願いを込めて、開催しています。

今年度の大会からは、東日本大震災からの復旧・復興のため、緑の少年団の皆さんにふくしまの未来の森づくりの一翼を担ってほしいとの思いで、これまでの体験交流活動から森づくり体験活動に大会プログラムを変更しました。

今回の大会は、県内の緑の少年団員、先生、保護者など十二団体、一七名と、岐阜県からも揖斐郡揖斐川町の緑の少年団の皆さんに参加していただき、関係者も含め全体で一八〇名の参加となりました。

岐阜県みどりの少年団は、同月二三日に開催された第二三回全国緑の少年団大会において、福島県の緑の少年団と交流する機会があり、東日本震災の復興支援のお手伝いとして今回の森づくり活動に是非参加し



岐阜県みどりの少年団挨拶の様子



表彰式の様子

たいとの意向があったことから大会参加が実現しました。
式典は、福島県緑の少年団育成協議会の渡邊裕樹会長の主催者挨拶に続き、村田文雄副知事、須藤徳之関東森林管理局長、佐藤憲男相馬市副市長の三名の方々より来賓祝辞をい

～ 別 表 ～

福島県知事賞

会津若松市立川南小学校「ホタルの里」緑の少年団
…………… 会津若松市立川南小学校

福島県教育委員会教育長賞

会津若松市立大戸小学校緑の少年団
…………… 会津若松市立大戸小学校

関東森林管理局長賞

中一みどりの少年団
…………… 石川町立中谷第一小学校

福島県緑の少年団育成協議会長賞

矢祭山みどりの少年団
…………… 矢祭町立内川小学校

奨励賞

猪苗代町立緑小学校緑の少年団
…………… 猪苗代町立緑小学校

飯豊小学校緑の少年団
…………… 小野町立飯豊小学校

会津若松市立謹教小学校緑の少年団
…………… 会津若松市立謹教小学校

いただきました。

続いて、岐阜県みどりの少年団の紹介と挨拶、今年五月に実施した活動発表大会の表彰式（別表のとおり）、県知事賞 会津若松市立川南小学校「ホタルの里」緑の少年団による活動発表、大野緑の少年団（相馬市立大野小学校）による誓いの言葉の順にとり行いました。

なお、今年五月「全国緑の少年団活動発表大会」に推薦した福島県教育委員会教育長賞の会津若松市立大戸小学校緑の少年団は、第三八回全国育樹祭の併催行事として、十月十一日（土）に鮭川村農村交流センター（山形県）で開催される全国大会で発表する五団（みどりの奨励賞・国土緑化推進機構理事長賞）に選ばれました。表彰式は、育樹祭の式典のなかで行われ、昨年の会津若

松市立川南小学校「ホタルの里」緑の少年団に続き、福島県は二年連続受賞の快挙となります。

式典終了後、昼食をはさんで、緑の少年団員は、県職員スタッフから午後

の森づくり活動で使用する木槌のキットの組み立て方を学び、配布された木槌のキットを仲間と協力しながら一生懸命組み立てていました。

午後は会場を南相馬市鹿島区北海老字釜舟戸に移し、「※海岸防災林再生等復興支援事業」の一環として、「未来の森づくり大会」（育樹作業）を開催しました。

実感していました。

育樹会場に到着すると、まず渡邊裕樹会長が挨拶し、標柱設置、記念撮影と続き、今年三月二二日に「ふくしまの森・復興大会」で植栽した二、〇〇〇本のクロマツを厳しい環境から守るため、育樹マツをクロマツの根元に設置しました。緑の少年団一三〇名は、一班三〜五名で三〇班に分かれ、クロマツが無事に生育することを願いながら、昼休み時間に組み立てた木槌を用いて、育樹マツを固定するための竹串を打ち込む作業を行いました。

緑の少年団員は、初めて経験する育樹マツの設置や、木槌を用いた竹串の打ち込みに歓声を上げながら、夢中になって取り組み、心地よい汗を流していました。



木槌キット組み立ての様子

ほどでしたが、緑の少年団員の心に育樹を通して未来の森、クロマツ海岸林をイメージするのに十分であったと思います。

今後、緑の少年団大会を通して、ふくしまの森の再生・復興に向けて、こうした森づくり活動を進めて行くこととしております。

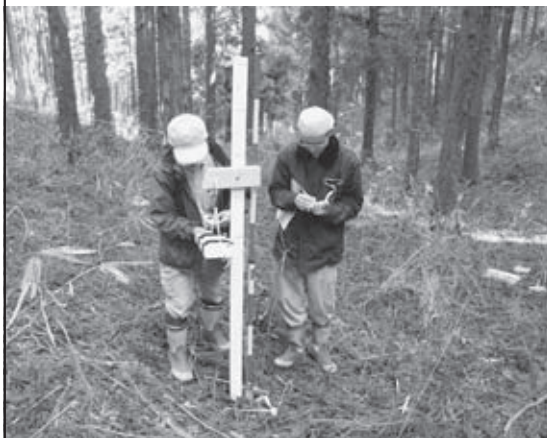
※ 海岸防災林再生等復興支援事業は、林野庁が復興庁の予算を活用して、東日本大震災で甚大な被害を受けた海岸林の再生に向けた取り組みにおいて、地元住民やNPO、企業等が植栽や保育を進める仕組みづくりを支援するものです。

「未来の森づくり大会」緑の少年団育樹体験は、この事業の一つである民間参画の仕組みづくりへの支援として実施いたしました。



育樹マツ設置の様子

林業研究センターだより 森林整備による 空間放射線量変化の調査



森林環境部

主任研究員 大沼 哲夫

1 はじめに

東京電力福島第一原子力発電所の事故により放射性物質で汚染された山村地域では、居住地と森林が一体となつて生活空間を構成しており、森林周辺の生活区域における空間放射線量を低減させる観点から、間伐等の森林整備が重要な対策の一つと位置付けられます。

そこで県内で行われている、ふくしま森林再生事業等の森林整備地において森林施業前と施業後の空間放射線量の比較を調査しましたので、その結果をお知らせします。

2 試験内容

(1) 試験地

放射性物質汚染対処特措法の基本方針に指定されている汚染状況重点調査地域（被ばく線量が年間1 mSv以上の地域（○・二三μSv/h以上）を選定しました。

施業の内容については、針葉樹林（スギ林）での切捨間伐施業・利用間伐施業・皆伐施業及び広葉樹林（コナラ林）での広葉樹更新伐施業・広葉樹更新伐施業の枝葉と落葉堆積物の除去を行った五つの森林施業タイプにおける空間放射線量を測定しました（表-1）。

(2) 調査方法

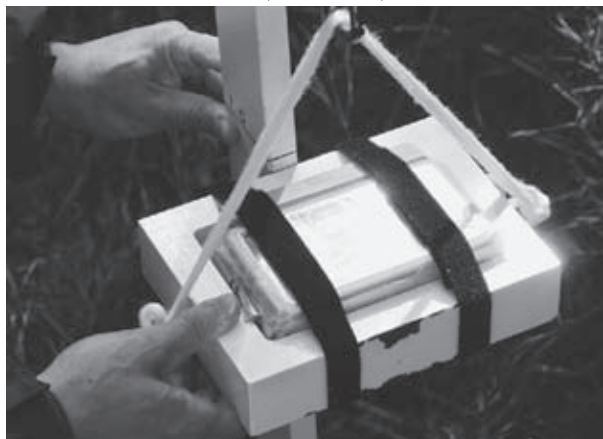
傾斜・樹種・立木密度・樹高・林床植生を調査し（表-1）、現地状況を把握するとともに、林内の全方向からの空間放射線量を測定するために、森林施業地の中央において十

表-1 施業内容および現地状況

施業内容	樹種	伐採率	材搬出の有無	枝葉等の除去 (落葉堆積物も含む)	傾斜角度	立木密度	樹高	林床植生
切捨間伐	スギ	30%	無し	無し	15°	1800本/ha	11m	ツリバナ・サワシバ・アワブキ・ミツバアケビ等
利用間伐	スギ	35%	間伐材に対して60%搬出	無し	26°	400本/ha	18m	ヤマグワ・オシダ・ミツバウツギ・マタタビ等
皆伐	スギ	100%	伐採木に対して75%搬出	無し	25°	1200本/ha	12m	ササ・ムラサキシブ・ミツバアケビ・ツルドウ等
広葉樹更新伐(枝葉等残置)	コナラ	90%	伐採木に対して50%搬出	無し	36°	800本/ha	10m	ミヤコザサ・クリ・ヤマザクラ等
広葉樹更新伐(枝葉等除去)	コナラ	90%	伐採木に対して50%搬出	有り	27°	800本/ha	7m	ミヤコザサ・ヤマザクラ・ミツバアケビ等

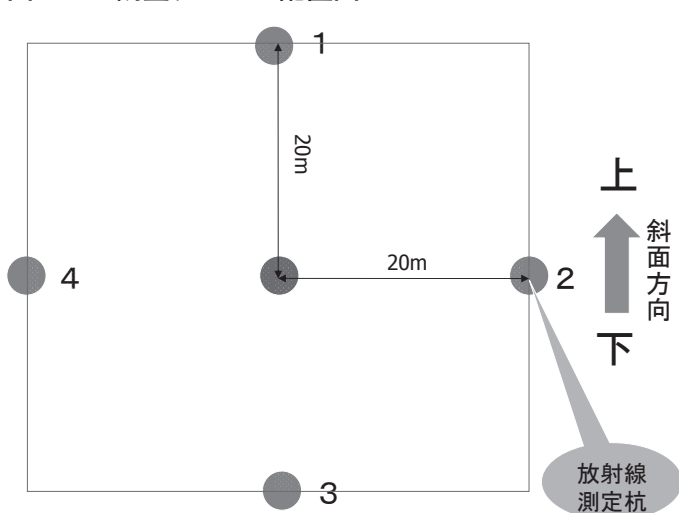
写真- 1

小型線量率計と遮蔽台（樹冠方向からの放射線を測定している様子）
↓（樹冠方向）



↑（地表方向）

図- 1 調査プロット配置図



字に調査プロットを設け、中心一点と中心から各方向二〇^割地点四点の合計五点を地上高一^{メートル}における空間放射線量率の測定を森林施業の前後に行いました(図一)。

また、全方向で測定された空間放射線量率が、どこかの放射性物質由来であるかを判別するために、森林総合研究所の協力を得て遮蔽台を用い、樹冠方向から来る放射線と地表方向から来る放射線の空間放射線量率を測定しました(大谷ら、二〇一三)(写真一)。

なお、線量率測定には小型線量率計(A2700型、クリアパウルス製)を使用し、遮蔽台は厚さ約二四^{センチメートル}の鉛製(UN-1207、ユニオンエース製)で小型線量率計の形状に合わせ硯のような形状に加工したものを使用しました。

3 結果及び考察

森林施業前と施業後において空間放射線量の増減を比較するために、その差が、たまたま出来た偶然の差なのか、意味を持った有意な差なのかを統計的有意差検定(危険率五^割以内)を行い空間放射線量の比較をしました。

針葉樹林(スギ林)での切捨間伐施業地(間伐率三〇^割)における施業後の全方向の空間放射線量率は有意に六・三^割減少しましたが、上下方向別の空間放射線量率は間伐施業の前後では有意差が見られませんでした(表一2)。

利用間伐施業地(間伐率三五^割、間伐材に対して六〇^割搬出)では、全方向及び地表方向からの空間放射線量率は変化しませんでした(表一2)。

皆伐施業地(伐採木に対して七五^割搬出、枝葉を残置)では全方向及び地表方向からの空間放射線量率は変化しませんでした(表一2)。

広葉樹更新伐施業地(九〇^割伐採して五〇^割を搬出)では、枝葉を残置した箇所での全方向及び地表方向からの空間放射線量率は変化しませんでした(表一2)。

以上の五つの施業の結果から、伐採木を搬出したことにより、地上高一^{メートル}から上の放射性物質が取り除かれ、樹冠方向からの空間放射線量率が減少したと考えられます。地表からは放射性物質は取り除かれていないので、地表方向からの空間放射線量率は施業前後で差が無かったと考え

れます。また、全方向の空間放射線量率は地上高一^{メートル}で測定してきますので、地表方向から来る放射性物質の影響を多く受けたと考えられます。そのため施業前後で差が無かったと考えられます。伐採木の搬出に加えて枝葉等を除去した場合に、地表方向からの空間放射線量率が下がったので、全方向の空間放射線量率も下がったと考えられます。

今回の調査で、森林施業によって空間放射線量が低減することを確認しました。しかし地表に枝葉等を残置することで、地上高一^{メートル}の空間放射線量が下がりにくいことから、間伐等の森林施業については、枝葉及び落葉等堆積物を除去することにより効果が発揮されると考えられます。

なお、枝葉及び落葉等堆積物の除去を行った場合、土砂の流出が懸念されるため、生活区域に隣接する森林整備においては、土砂の流出防止の対策を検討する必要があります。

また、今回の結果は地形・樹種やこれまでの施業実施状況で大きく左右され、また空間放射線量も場所によって大きく異なることから、多様な森林整備に伴う一つの事例として考えるべきものであります。

4 引用文献

大谷義一ら(二〇一三) 森林域における除染効果確認のための上下方向別空間線量率測定、関東森林研究、六四

表一2 スギ林

施業内容	全方向			樹冠方向から			地表方向から		
	施業前 ($\mu\text{sv}/\text{h}$)	施業後 ($\mu\text{sv}/\text{h}$)	減少率 (%)	施業前 ($\mu\text{sv}/\text{h}$)	施業後 ($\mu\text{sv}/\text{h}$)	減少率 (%)	施業前 ($\mu\text{sv}/\text{h}$)	施業後 ($\mu\text{sv}/\text{h}$)	減少率 (%)
切捨間伐	1.56	1.46	- 6.3 *	0.55	0.52	- 4.7 n.s.	1.03	1.05	1.1 n.s.
利用間伐	0.65	0.62	- 4.7 n.s.	0.28	0.22	-21.9 *	0.44	0.47	7.3 n.s.
皆伐	0.44	0.39	-12.0 n.s.	0.16	0.10	-40.2 *	0.27	0.33	18.6 n.s.

注) *は平均値に有意差があることを示し、n.s.は有意差がないことを示す (P<0.05)

表一3 コナラ林

施業内容	全方向			樹冠方向から			地表方向から		
	施業前 ($\mu\text{sv}/\text{h}$)	施業後 ($\mu\text{sv}/\text{h}$)	減少率 (%)	施業前 ($\mu\text{sv}/\text{h}$)	施業後 ($\mu\text{sv}/\text{h}$)	減少率 (%)	施業前 ($\mu\text{sv}/\text{h}$)	施業後 ($\mu\text{sv}/\text{h}$)	減少率 (%)
広葉樹更新伐(枝葉等残置)	0.59	0.56	- 4.4 n.s.	0.18	0.16	- 8.0 *	0.43	0.47	8.3 n.s.
広葉樹更新伐(枝葉等除去)	0.61	0.43	-29.3 *	0.18	0.12	-31.6 *	0.46	0.34	-25.8 *

注) *は平均値に有意差があることを示し、n.s.は有意差がないことを示す (P<0.05)

森と生きる 「南湖森林公園を有名に」

福島県もりの案内人の会 県南支部 薄葉正雄

白河市の「南湖」は藩主松平定信公が一八〇一年に築造されて有名ですが、その県立南湖公園に隣接して、

私たち「南湖森林公園案内人の会」が拠点を置く「南湖森林公園」があります。南湖森林公園の存在を知る人はまだ多くありませんが、こんなに良い自然環境が白河市の中心部にあるのに普段は利用者が少なく、常連の散歩者が一日に三、四〇人程度です。また、学校からの依頼で自然観察や木工クラフトを行い、最近では公民館活動の一環としての利用があり、少し広がりが出てきたところ

です。この施設建設が始まる前に懇談会が設けられ、市民と市が協同で計画し、建設に反映していただき、理想的な施設となりました。「人が集まりまた来たくなる楽しい里山」として、市民が集い、森林環境を利用し

た教育の場や都市と山村の交流の場としての利活用を目指して、平成二二年十月に開園しました。

森林公園は約二〇鈴で、管理棟一棟と駐車場二カ所、展望台や四阿があり、ここからは市街地が見渡せ、晴れた日には白河市の最高峰権太倉山や遠く布引山の風車も見ることが出来ます。また、園内には芝生広場、遊歩道やハイキングコースがあり、小学生がドングリ拾いや虫取りにきたり、市民が散歩したり、生徒がトレーニングをしています。また、もりの案内人の会 県南支部、みなもん自然環境塾、野鳥の会 白河支部などの団体の人たちが利活用しています。

園では平成二三年三月「NPO法人南湖森林公園案内人の会」を設立し、三〇数名が会員登録して活動しています。会では白河市から委託を

受けて、施設維持管理委託事業を行っており、三月から十一月まで主に理事が交代で、一名が常駐しています。

会員は小・中学校からの依頼により、自然観察、木工クラフトなどを行っており、学校にも出張します。また、国立那須甲子青少年自然の家へ講師派遣、総合的学習の時間やセカンドスクール（宿泊）で、森の案内のほか登山、沢遊び、木工など研修指導員として活動しています。今年度は住友ゴム工業から助成金をい



熱心に木工クラフトに取り組む児童達

ただき四月から十一月まで八回の教室を開きます。いずれも自然を生かした「お花のリース作り」や「木工クラフト」、虫の先生を招いて「虫さがし」などの教室を開き、初めての割には好評を得ています。また、人集めの工夫として、畑でジャガイモ、サツマイモ、カボチャを栽培し、参加者に振る舞い喜ばれています。芝生の斜面を利用した段ボール草すべりが思いのほか人気があります。最近ターザンブランコを設置しました。今後は、空き缶で花炭焼き、間伐材で丸太の平均台、竹馬などを作り、より充実を図り集客に努力し「誰でも分かる魅力ある施設」にしたいと思っております。また、経営安定化のため助成金制度を利用したり、賛助会員を募集したり、販売事業の充実も展開していきます。

将来は、「あそこに行くとか何があるぞ」と思う仕掛けを作り、子どもたちが一日中遊んで思い出を心いっぱい詰めて帰れるように、所期の目標である「人が集まりまた来たくなる楽しい里山」を目指したいと思

ふくしま県産の木製品でほっと一息

■相双農林事務所

林業普及指導員 小野田 義 宏

相双農林事務所では、県産木材の利用をすすめるため、テクノアカデミー浜建築科の学生と、森林環境税を活用して福島県産木製品の設置に取り組んでいます。

過去3カ年の取組状況は次のとおりです。

平成23年度 南相馬市仮設住宅集会所 設置等 テーブル2基・イス12基・下駄箱2基

平成24年度 社会福祉法人南相馬福祉会 CDラック1基 足置台6基 ベンチ1基

平成25年度 社会福祉法人いいたて福祉会 花台2基 カラオケ台1基 キッチン台1基 書棚1基

この取組のきっかけは、平成22年度の事業実施に向けテクノアカデミー浜校（以下「テク浜」）に木製品の設置依頼に伺ったところ、学校から木製品製作に関する連携について提案があったことです。この提案を受け、平成23年度からは設置箇所の選定から木製品の設置までの指導を、人材育成の視点で行っています。

平成25年度は特に飯館村の復興支援とも位置づけ、社会福祉法人いいたて福祉会（飯館村）が運営する特別養護老人ホーム「いいたてホーム」への木製品設置に取り組んだところです。

東日本大震災に起因する福島第1原子力発電所事故の発生後、飯館村は計画的避難区域に指定されましたが、「いいたてホーム」は、国から特別に許可を受けて運営を継続していた施設です。



「いいたてホーム」には、事業実施に先立ち設置を希望する木製品の一覧作成を依頼し、その一覧をテク浜へ提供、製作の可能な木製品の選定について調整し、「いいたてホーム」での打合せも数度にわたり設定しました。この打合せでは、施設の職員と学生が実際に木製品を設置する場所において、様々な条件を確認しながら意見交換を行い、双方が納得できる木製品の仕様を決めていくことができました。

製作に当たっては、利用者が快適に使用できるよう、よりよい形に仕上げることに配慮いただきました。

また、木材利用に対する意識の醸成を図ることを目的として、学生を対象に素材生産から製材加工までの現地見学を行いました。

それぞれの現場において、森林組合の担当者から話を聞くことができ、充実した研修会となりました。

今年度は、相馬郡新地町にある社会福祉法人しんち福祉会へ木製品の設置を予定しており、学生と法人の打合せを開催しました。順調にいけば夏休み明け頃には、デザイン案が完成する予定です。

この社会福祉法人の施設においても、利用される方が快適に利用できるように、よりよい木製品の設置に向け努力していきたいと考えております。



10月のお知らせ

◇第12回うつくしま育樹祭

期 日 10月4日(土)

場 所 猪苗代町

「びわ沢原森林公園」

お問い合わせ先

公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会
(緑化推進局 TEL: 024-524-1480)

◇うつくしま21森林づくり活動 発表交流会

期 日 10月18日(土)～19日(日)

場 所 須賀川市(旧岩瀬村)

「響きの森」ほか

お問い合わせ先

うつくしま21森林づくりネットワーク
(事務局 TEL: 0243-48-2040)

◇第39回福島県林業祭

期 日 10月25日(土)～26日(日)

場 所 郡山市

「福島県林業研究センター」

お問い合わせ先

福島県林業祭実行委員会
(事務局 TEL: 024-521-7426)

林災防だより

林災防福島支部



当協会の林業関係労働災害防止の各種特別教育等の実施にあたり日頃からご理解とご協力をいただき、本年度で発足五〇年の節目を迎えることができましたこと、誠にありがとうございます。

平成二六年度は、平成二五年に引き続き林業労働災害事故が多く、伐木造材関係の事故が目立っております。県補助を受け先山ゼロ災推進巡回指導を七月から実施、作業現場で指導を受けられた方もおられることでしょうか。まず、身近で危険と考えられることをなくす、「習慣にするのが大事指差し呼称！」で安全に仕事を進めましょう。

さて、当支部が実施する安全教育の中で、刈払機とチェーンソー講習会の受講者は、平成二三年三月十一日発生した東日本大震災以降毎年

一、〇〇〇名以上を救え、林業面からは就業者の充実が図られうれしいものの、現実には震災に伴う原発事故の除染作業従事者が大半のようです。また、市町村職員や電力関係職員等、これまで受講しなかった方々も見受けられ、事業発注者の安全意識が高まってきたと感じています。

平成二六年度は労働安全衛生規則が平成二五年十一月に一部改正され、本年十二月から施行されます。法改正による経過措置期間（平成二六年十一月末まで）に対象林業従事者への車両系林業機械の特別教育を終えることが第一の事業で



車両系林業機械の特別教育受講風景

す。当協会が車両系に関して発行した修了証取得者は約一、三〇〇人おり、八月末で三五〇名が法改正による新たな修了証を手にしています。未受講者の方は当協会のホームページを見て受講申し込みをしてください。

今後、「チェーンソーを用いた林



伐木等の業務に係る特別教育（実技）

材業の作業を行う者等」を受講対象者に十一月に集団指導会を無料で開催すること、例年どおり「振動障害特殊健康診断事業」を十一月中旬から実施する予定であることをお知らせします。是非、参加、受診をお願いいたします。

団体のページ

森連だより

林業の将来を担う
人材を育成する
「緑の雇用」事業について



日本の林業の現場では、木材生産活動の停滞などの影響により、林業就業者が年々減少し、昭和四五年には約二六万人いた就業者が、平成二五年には、約七万人にまで減少しております。

また、就業者の高齢化も進み六五歳以上の就業者の割合が上昇しております。

本県の林業においても、同様の傾向がみられ、平成二二年の就業者数は約二、〇〇〇人と四〇年間で四分の一にまで減少してしまつたことは、先に述べたことに加えて、他産業に比べ労働災害の発生頻度が高いことも労働者の確保が困難な理由の一つに掲げられます。

この様な状況を踏まえ、福島県では、平成十六年から二年間、「福島県緑の雇用担い手育成対策事業」を行い、その後、平成十八年から国の

「緑の雇用担い手対策事業」を実施し、これまでに、一、一〇〇人の研修生を育成してきました。（一年目（三年目重複有り））

その結果、減少を続けていた就業者数が、平成二二年以降は、増加又は横ばい傾向まで回復しております。

平成二二年度実施事業から、施業の集約化と路網の整備、高性能林業機械を活用した効率的な作業システムにより、利用期を迎えた人工林資源を有効活用し、国産材の安定供給につなげていくために、専門的かつ高度な知識・技術・技能等を有し、間伐等の森林整備を効率的に行える現場技能者の確保・育成を目的とした、「緑の雇用現場技能者育成対策事業（林業作業士・現場管理責任者・統括現場管理責任者研修）」が新たに始まりましました。

林業作業士（フォレストワーカー）研修は、新規就業者を対象とし、林業に必要な資格の取得に加え、基本的な知識・技術等の習得のための集合研修と職場内研修を組み合わせた一年目から三年目までそれぞれの能力に応じた三年間の研修及び労働災害防止のための安全指導を行います。

現場管理責任者（フォレストリーダー）研修は、林業就業経験五年以上の方が対象で、これまでに習得した技術等に加え、担当現場の効率的な運営や現場の統括管理に必要な知識・技術・技能等をさらに習得できます。

そして、統括現場管理責任者（フォレストマネージャー）研修は、林業就業経験十年以上の方が対象で、事業体全体の安全管理を図るとともに、高度な知識、熟練した技術・技能をもって、各現場の管理を行い、事業体の経営にも参画できる人材の育成を行います。

そして、各研修を終了すると農林水産省が備える研修修了者名簿に登録され、林業労働者の能力評価に資するとともに、林業労働力が確保される制度となっております。

近年、二酸化炭素排出量の削減のための間伐等森林整備が進められて

おり、今年の春には「緑の雇用事業」をテーマとした映画も公開され、さらに林業が注目されております。

本県においても、ふくしま森林再生事業により、今後更に林業の担い手が必要になると思われますので、「緑の雇用事業」を活用し優秀な林業の担い手が育成されることにより、未だに払拭されずにいる福島県の林業再生に向け、県も掲げている日本一の林業県を目指す大切な「人財」となっていただけるよう希望します。



「平成26年度福島県山地防災ヘルパー講習会の開催について」

福島県森林保全課

平成26年7月22日（火）、福島県林業研究センターを会場に平成26年度福島県山地防災ヘルパー講習会が開催されました。また、翌日は同センター内において治山事業のうち海岸防災林事業等での活用が期待されるマツ苗木研究などの現地研修も併せて行われ、県内から防災ヘルパー会員のうち13名が参加されました。



講習会での受講状況



現地調査における熱中症対策の講義

山地防災ヘルパーは、山地災害から県民等の生命や財産を守るために、福島県が実施する県内の山地災害に関する情報収集について、自主的に協力してくれるボランティア活動者を定めたもので、知事が認定します。

主な活動としては、自身の安全を確保できる範囲において、自主的に山地災害の予兆現象や災害の発生状況等に関する情報を収集し、最寄りの農林事務所等に情報提供するもので、東日本大震災や新潟・福島豪雨災等においても積極的に参加、協力されました。

現在、会員数は93名で、県内の市町村職員や森林組合職員などが主な登録者となっており、今年度は新たに7名の方が認定されました。

講習会は、情報収集活動に必要な知識や資質の向上を図るため、毎年開催されており、近年のゲリラ豪雨等にみられる突発的な災害などにおいても、地元の地形や地質を把握されている山地防災ヘルパーの活躍が期待されます。



新規認定者への認定証の交付



現地研修状況

木材市況

素材の価格〈工場着価格〉(6月15日現在)

(単位: m³当り千円)

区分	形量		材質	樹種	中通り地方		会津地方		浜通り地方		県平均		
	径(cm)	長さ(m)			当月	前月差	当月	前月差	当月	前月差	当月	前月差	
一般用材	小	5~9	4.00	並	スギ	9 (8~10)	0	(0~0)	0	10 (10~10)	0	9 (8~10)	0
		10~13		並	スギ	13 (9~15)	0	8 (8~8)	0	11 (10~13)	0	11 (8~15)	△1
	中	14~18	3.00	並	スギ	14 (13~15)	0	10 (10~10)	0	13 (13~14)	0	13 (10~15)	0
				並	ヒノキ	15 (14~16)	△8	(0~0)	0	19 (18~20)	0	17 (14~20)	△4
		6.00	並	スギ	18 (16~20)	0	8 (8~8)	0	17 (16~18)	△1	16 (8~20)	0	
			並	ヒノキ	27 (27~27)	0	(0~0)	0	25 (22~28)	0	25 (22~28)	0	
	20~28	3.65	並	スギ	14 (13~15)	0	12 (12~12)	0	14 (13~14)	0	13 (12~15)	0	
		4.00	並	アカマツ	9 (7~10)	△1	(0~0)	0	10 (10~10)	0	9 (7~10)	△1	
		1.80	並		7 (5~8)	0	(0~0)	0	8 (7~8)	0	7 (5~8)	0	
	外材	30以上	10.00	並	米ツガ	(0~0)	0	(0~0)	0	31 (26~35)	1	31 (26~35)	1
並				米マツ	33 (33~33)	0	29 (29~29)	0	32 (29~35)	0	32 (29~35)	0	
28以下		4.00	並	エゾマツ	(0~0)	0	(0~0)	0	27 (26~28)	0	27 (26~28)	0	
			並	ベニマツ	(0~0)	0	(0~0)	0	32 (28~36)	0	32 (28~36)	0	
南洋材		70~90	8~14	並	ラワン	(0~0)	0	(0~0)	0	(0~0)	0	(0~0)	0
				並	アガチス	(0~0)	0	(0~0)	0	(0~0)	0	(0~0)	0
パルプ用材	-	-	並	マツ	(0~0)	0	(0~0)	0	3 (3~3)	△2	3 (3~3)	△2	
			並	広葉樹	(0~0)	0	(0~0)	0	3 (3~3)	△2	3 (3~3)	△2	

区分	形量		材質	樹種	会津共販		いわき	
	径(cm)	長さ(m)			当月	前月差	当月	前月差
一般用材	12以下	4.00	並	カラマツ	7 (6~7)		8 (6~9)	0
	13~14		並	カラマツ	8 (7~8)		8 (7~8)	0
	16以上		並	カラマツ	9 (8~10)		9 (8~10)	0

注) 1. 前月差の△印は値下りを、*印は前月実績がなかったことを示す。
 2. ()内は各地域の価格幅、()外は各地域の平均価格を示す。
 3. 一般用材カラマツは工場着価格ではなく、福島県森林組合連合会の会津共販所・いわき木材流通センターの素材市売価格を示す。

五月の原木市場への入荷状況は、前月比二〇割減(前年比二割増)の二二、三〇立方メートルとなっている。
 販売量については、前月比二三割減(前年比二二割増)の二一、九四九立方メートルとなっている。
 六月の価格については、需要の減などにより小安い状態となっている。



植物生存戦略から考えるクマとの共生

県北農林事務所 菅野 広 大

「なぜ、植物は氷点下でも凍結しないのか」
 こんな些細な疑問が私の植物生存戦略への興味を一気に湧かせ、植物生態を学ぶきっかけとなりました。

植物は我々が思うよりずっと賢く、驚きの生存戦略を持っています。
 ブナは、生存戦略のひとつにマスティング(豊凶性・大量に結実する年もあれば結実しない年もある)という結実特性を持っています。近年、福島県内でクマが多数目撃され、今年も会津地方で人的被害が発生しています。そのクマの出没とブナのマスティングは強い関係があります。つまり、ブナのマスティングを予測することができれば、クマの出没を予測し、注意・対策を講じることができるといえることです。

会津地方振興局では関係機関と連携し、平成二四年度から管内におけるブナ・ナラ類の結実状況調査を実施しており、その結果をもとにクマ出現の注意喚起を行っています。今年度のブナは凶作であることが予想されており、より一層の注意が必要



シードトラップによるブナ種子の豊凶調査



クマ剥ぎ防止テープ巻付状況

ちなみに最初の疑問の答えですが、植物は気温が下がると徐々に水分の吸収量を減らし、体内の糖度を上げ凍結点を下げているようです。やっぱり、植物ってすごいなあ。

表紙の写真



「新築中」

第10回ふくしま森林・林業写真コンクールで入選を受賞した田崎栄一さん（柳津町）の作品。

はなしのひろば

九月雑感

立秋を過ぎたころから、夜には秋の虫カネタタキがチツ、チツ、チツ、と鳴き、闇の中で静寂を演出している。秋は、いつも夜、静かにしのび寄ってくる。

ふと空を見上げると、雲は、入道雲からホウキで掃いたような絹雲となっている。夏は縦にのびる雲だが、秋は横に流れるような雲となり、空がもつと広く感じるようになる。少しずつ秋の気配を感じると、夏の解放感は薄れていき、逝く夏をしのびたくなる。

時はすでに仲秋の九月となり、月がきれいに見えてくる。これは秋の空気が比較的乾いていて大気があまりぼやけてなく、適度な高さには月があるからだという。実は春にも同じ高さになるが、塵や花粉で見えにくくなっている。春の「おぼろ月」にはそんな根拠がある。「月」は秋の季語だが、立待月、居待月、臥待月：一夜毎に姿を変えていく月の満ち欠けに、流れゆく時間とロマンを追って実に多くの名がつけられている。

しかし、意外にも九月は雨の月だ。平均降水量は梅雨時よりも多いそう。秋の長雨は、秋霖（あきうりん）、秋湿り（あきぬめり）、秋微雨（あきこぼり）などしとしとと降り続くが、その秋雨を含んで彼岸花（曼珠沙華）は急いで姿を現し、いつの間にかその赤い花々は静かに燃え広がっていく。

九月は月の始めと終りの温度差が激しく「新涼」が「やや寒」となり、冷気を感じる夜さえある。九月は秋気连心染まりいく序章の月だ。やがて秋雨前線は南下を始め、ひと雨ごとに紅葉が濃くなってゆく。そして季節は少しずつ秋気澄む候となり、衣を一枚ずつ重ねていく晩秋へとむかう。（都）

編集

福島県内四森林管理署

福島県森林・緑化協会

福島県森林組合連合会

福島県木材協同組合連合会

福島県農林種苗農業協同組合

ふくしま緑の森づくり公社

森林総合研究所福島水源林整備事務所

福島県森林・林業・緑化協会

（福島市中町五番一八号県林業会館内）

相馬 雅俊

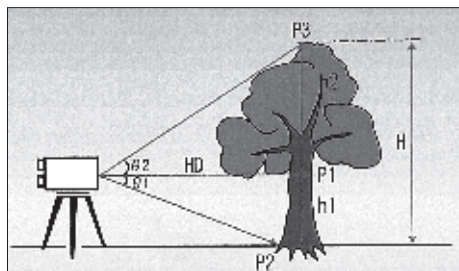
発行人

陽光社印刷株式会社

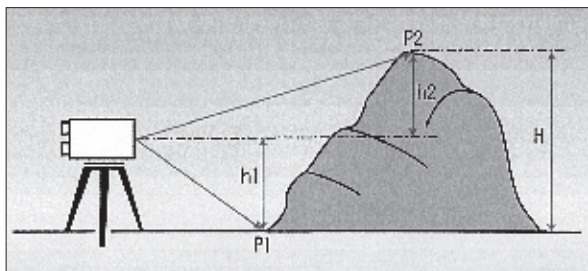
（定価 一〇八円）

高さ測定

1. 樹木の様に比較的まっすぐな場合



2. 堆積物等の山なり形状の場合



【LDM-20 仕様】

測距範囲	反射板 無30m 有300m
測距精度	±5mm
傾斜センサー分析能	0.1
測定	高さ・水平距離・斜距離
寸法	W64・H64・D180
重量	650g
付属品	ソフトケース・反射板・取説 RS232Cケーブル・EXCEL取込ソフト



LDM-20

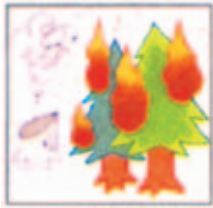
レーザーハイトセンサー「ハイト mini」

株式会社 福島測機

福島市渡利山ノ下前37-2 TEL024-523-1706 FAX024-523-1704

備えのパートナー 森林国営保険

こんな災害からあなたの山を守ります。



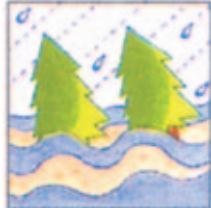
1 火災

山火事で受けた損害



2 風害

暴風による根返り、幹折れなどの損害



3 水害

豪雨、洪水による埋没、水没、流失などの損害



4 雪害

大量の積雪による幹折れ、根返りなどの損害



5 干害

乾燥による枯死などの損害



6 凍害

凍結、寒風などによる枯死などの損害



7 潮害

潮風、潮水浸水などによる枯死などの損害



8 噴火災

火山噴火による焼損、幹折れ、埋没、根返りなどの損害

《保険の対象となる森林》

竹林や人手の全く入らない天然林を除き、面積が0.01ha以上であれば、樹種、林齢に加入制限はありません。

《ご相談・お申し込みは》

- ◆ 県内各森林組合
- ◆ 福島県森林組合連合会

又は 県庁森林保全課
TEL 024-521-7441

イワフジのプロセッサ

GP-45V グラップルプロセッサ

IWAFUJI
INDUSTRIAL CO., LTD.

シンプルと耐久性を追求したプロセッサ

- 高耐久性を追求したフレームとトンク
- 全旋回を無くしたシンプル設計
- カッタ保持はシンプルなスプリング式
- 強力な油圧モータおよび保持力によるパワフルな送材力
- 大きなトンクによる効率的なグラップル作業
- 皮剥けを防止するガイドローラ付トンク
- 高速コンピュータGP-7による精度の高い安定した測尺
- 手元のノブスイッチで全ての操作が可能

Simple Processor
MODEL : GP- 45V

イワフジ工業株式会社

www.iwafuji.co.jp

北関東支店 〒969-1149 福島県郡山市八山田 5-314
TEL 024-973-5166 FAX 024-973-5168

林業機械の総合メーカー

- ・ハーベスタシリーズ
- ・フォワーダシリーズ
- ・グラップルシリーズ
- ・プロセッサシリーズ
- ・スイングヤーダシリーズ
- ・ラジキャリアシリーズ
- ・木寄せウインチシリーズ

イワフジが開催する「高性能林業機械のメンテナンス研修」受講生募集中!



自然との調和

(私達は、地球的視野に立ち、つねに進取の精神をもって、時代に挑戦します。)
皆様のご要望にお応えする、環境との調和を図る製品やタイムリーな情報を提供し、全国から厚い信頼をいただいております。

野生獣類から大切な植栽木を守る

ヤシマレント

蜂さされ防止

ハチノックL (楽退治)
ハチノックS (携帯用)

大切な日本の松を守る 住化グリーンの林業薬剤

ヤシマスミバイン乳剤
ヤシマスミバインMC
グリーンガードNEO
パークサイドF
ヤシマNCS
モリエートマイクロカプセル
マツグリーン液剤2
マッケンジー

くん蒸用生分解性シート

与作シート (茶・白)
(折りたたみ式
専用キャリーバック使用)



住化グリーン株式会社

本社 〒103-0016 東京都中央区日本橋小網町1番8号 TEL.03-6837-9422 FAX.03-6837-9423
東北営業所 〒981-3133 宮城県仙台市泉区泉中央3丁目10番3号 泉セントラルビル202号室 TEL.022-771-6681 FAX.022-771-6682

効率良く快適に! 手持ち作業から大型作業まで充実のラインナップ。

機器はゼノアから

チッパシュレッダ



竹もOK!
SR3000-2
出力 **22.3kW** (質量1,330kg)
水冷ディーゼル
X379301020
¥3,375,000(税抜)

プロソー



GZ3900EZ
排気量 **39.1cm³** (質量4.4kg)
RSP 21BPX 967159403 ¥108,000(税抜)
95VPX 967159303
HS 25AP 967159104
91VXL 967159204
HM 21BPX 967159404
95VPX 967159305



GZ4300EZ
排気量 **43.1cm³** (質量4.4kg)
45cm(18")
RSP 21BPX 967160502 ¥133,700(税抜)
95VPX 967159902
HM 21BPX 967160504
95VPX 967159904

ハスクバーナー・ゼノア(株)福島県代理店
(有)うねめ林業機械

TEL(024)952-2657・FAX(024)951-7775 〒963-0211 郡山市片平町字新蟻塚108の1